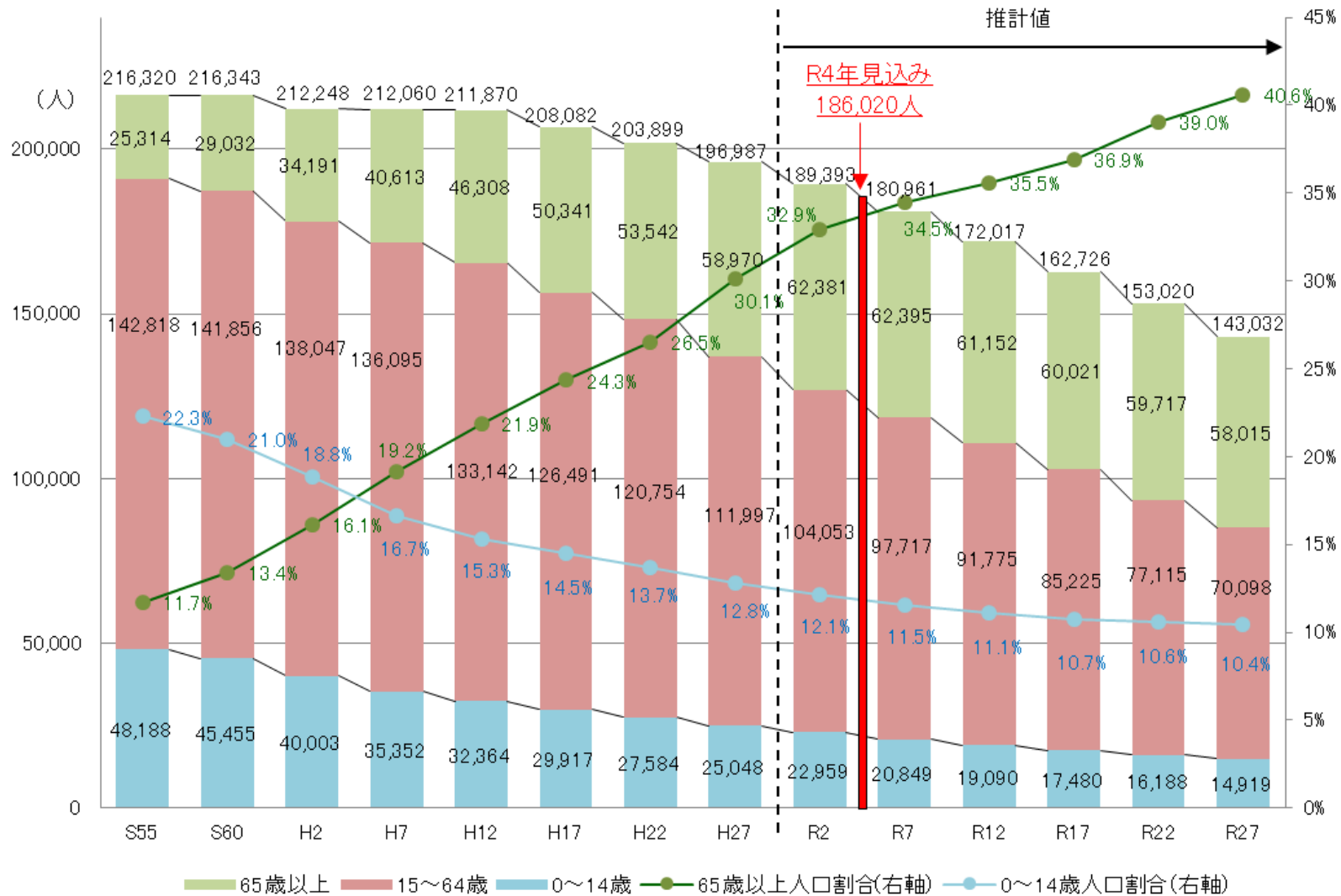


# 人口の状況等について

---

## 【長期的な人口の推移と将来推計人口の比較】

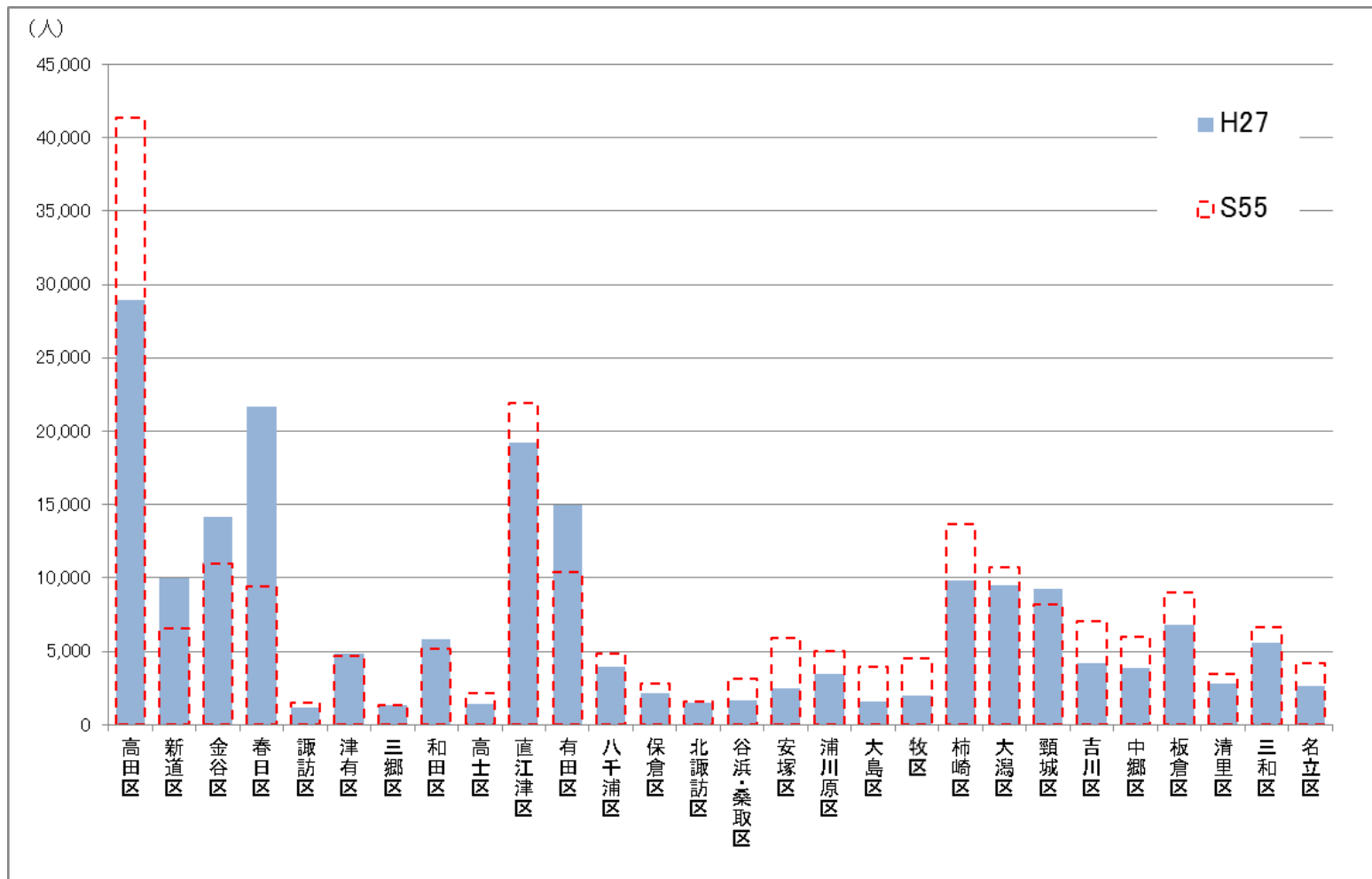


・国立社会保障・人口問題研究所の平成30年3月推計データによると、上越市の人口は令和7年には約18万千人、さらに20年後の令和27年には約14万3千人に減少すると推計されている。

・直近の国勢調査が実施された平成27年から令和27年までの30年間で、総人口の規模は約4分の3になることが想定されている。

・また、年齢構成をみると、65歳以上の高齢者が人口に占める割合は、平成27年時点の30.1%から令和27年には40.6%に上昇し、15歳未満の年少者が総人口に占める割合は、平成27年時点の12.8%から令和27年には10.4%に低下するとみられている。

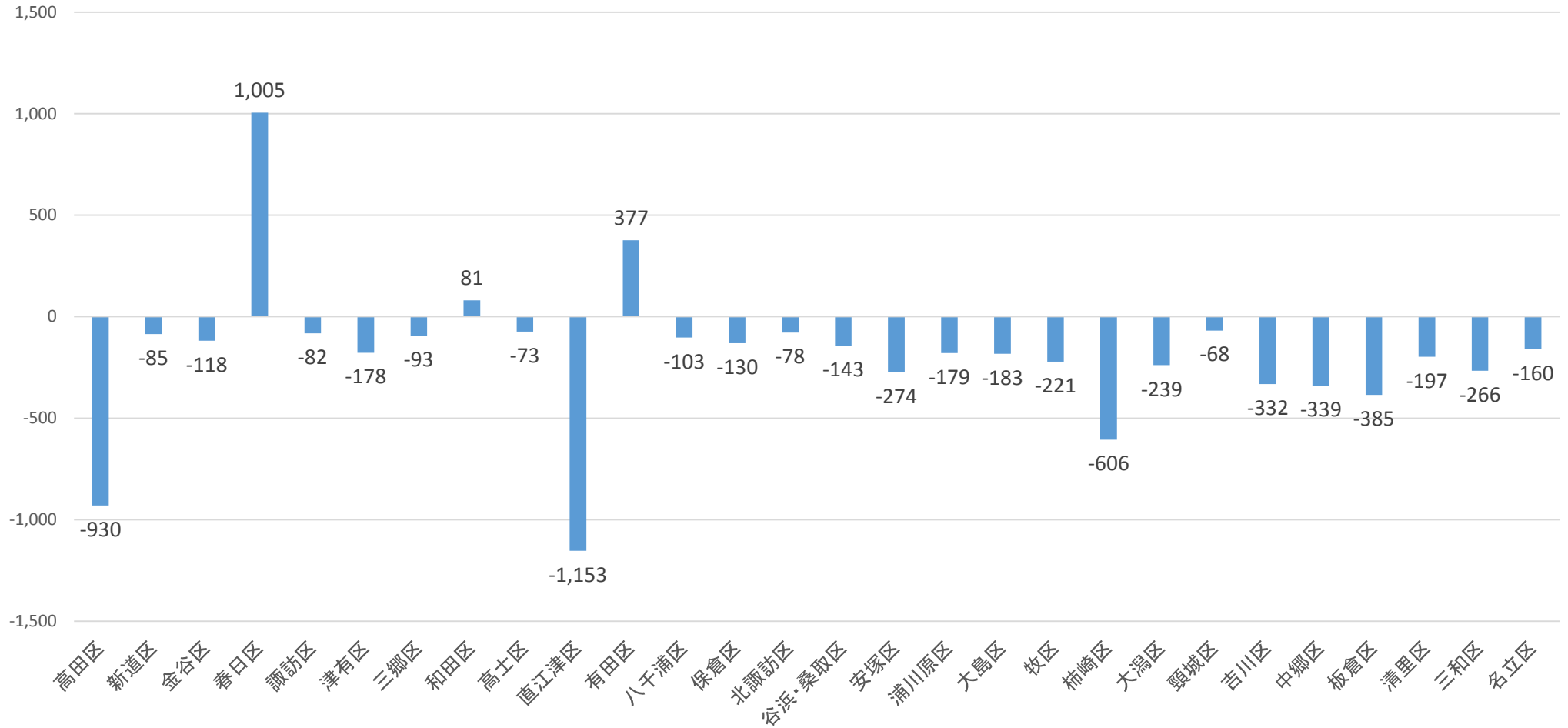
### 【地域自治区別の人口の増減】



・昭和55年から平成27年までの35年間の人口増減を市内28区の地域別に見ると、7区では人口が増加しているが高田、直江津、中山間地域など21区で人口が減少している。

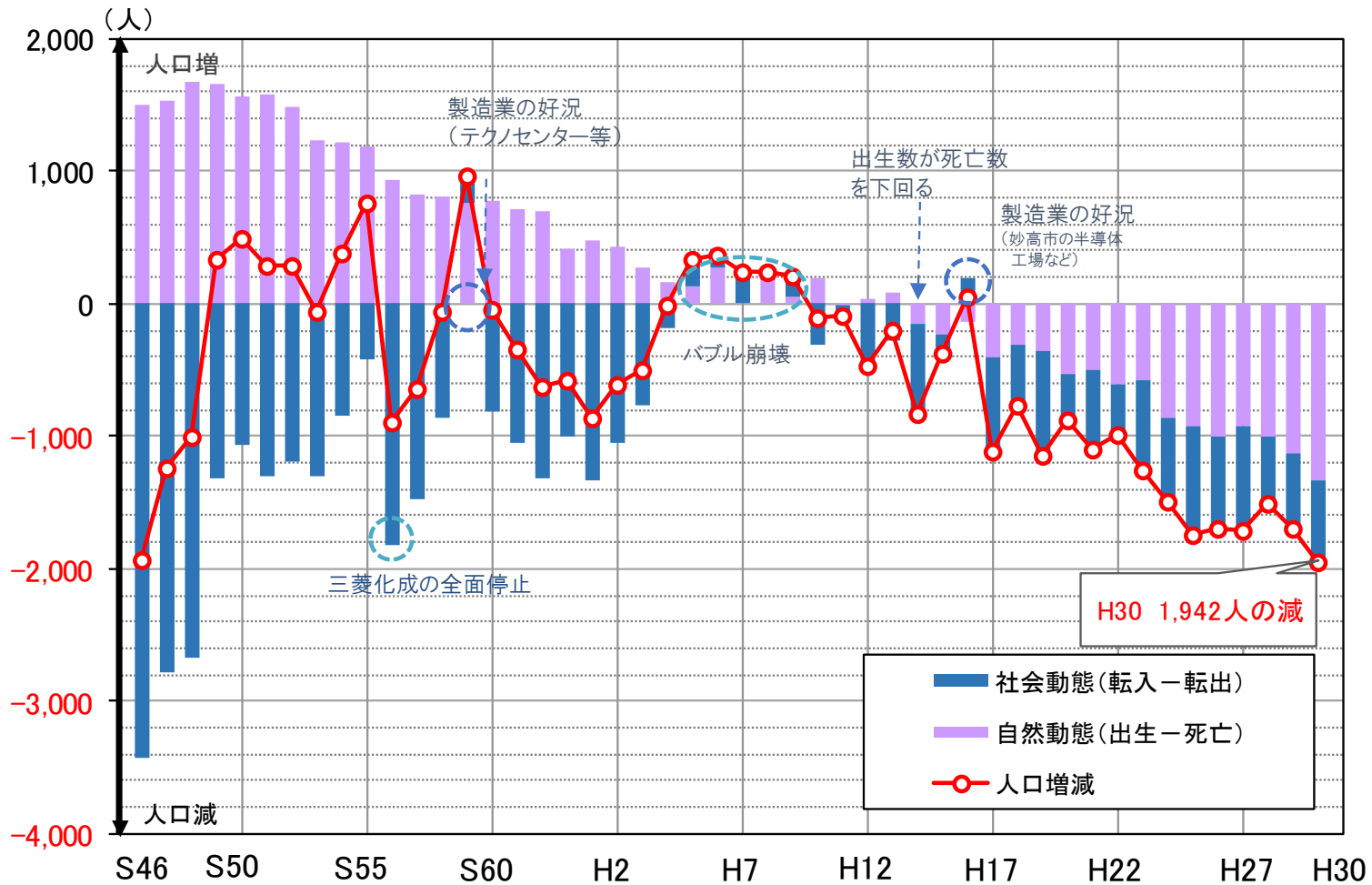
出典 各年国勢調査により作成  
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

地域自治区別人口の増減(平成27年10月1日時点と平成30年10月1日時点の比較)



出典 住民基本台帳により作成

## 【長期的な人口の推移】

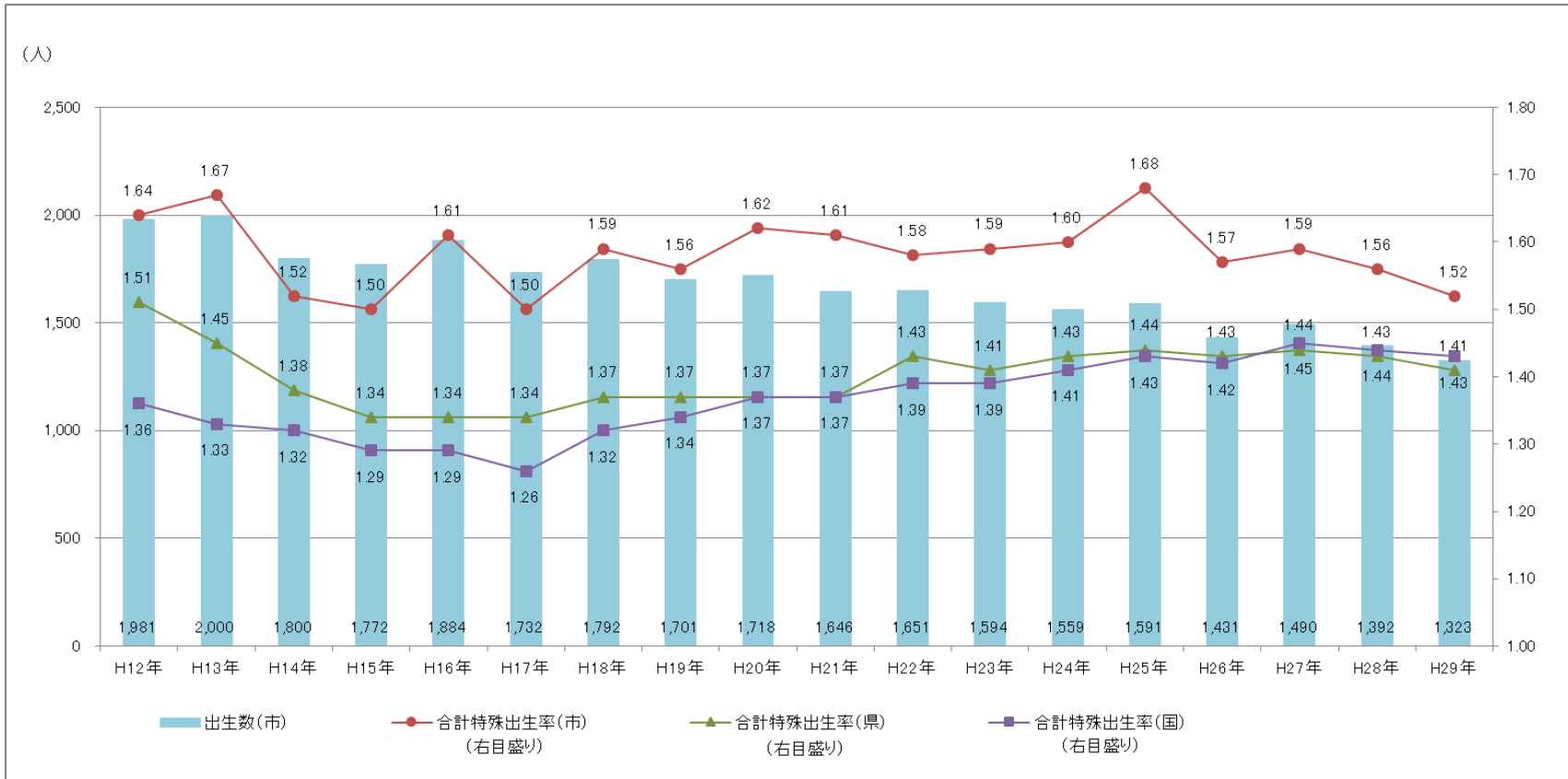


・平成初期までは、自然増が社会減をカバーしていたが、平成17年以降は、出生数より死亡数が上回る自然減に転じたことにより、社会減と合わせて人口減少の傾向が著しくなっている。

・平成30年には、年間1,942人の人口減少が生じている。

出典 新潟県人口移動調査結果報告により上越市創造行政研究所作成  
 ※各年度の人口動態データの対象期間は、前年10月から当年9月までのもの(例:H26の値は、H25年10月からH26年9月まで)  
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

## 【出生数と合計特殊出生率の推移】



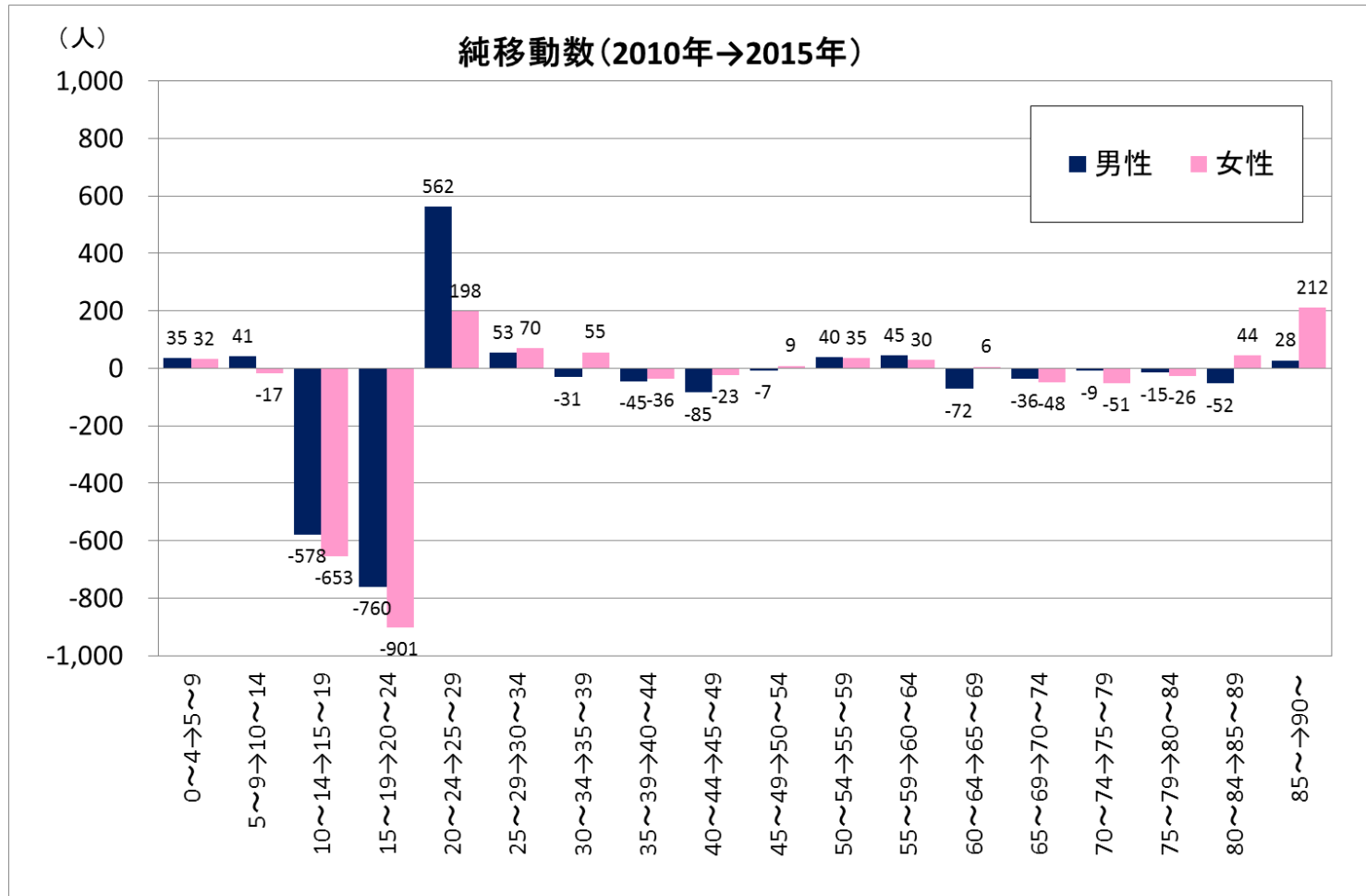
・当市における合計特殊出生率は、平成29年には1.52となっており、全国の1.41、新潟県の1.43と比較し高い数値となっている。

・近年では平成25年の1.68が最も高く、平成26年以降は低下傾向にある。

・平成29年の出生数は、1,323人で近年で最も少ない値となっている。

出典 厚生労働省「人口動態調査」  
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

### 【年代別の純移動数】

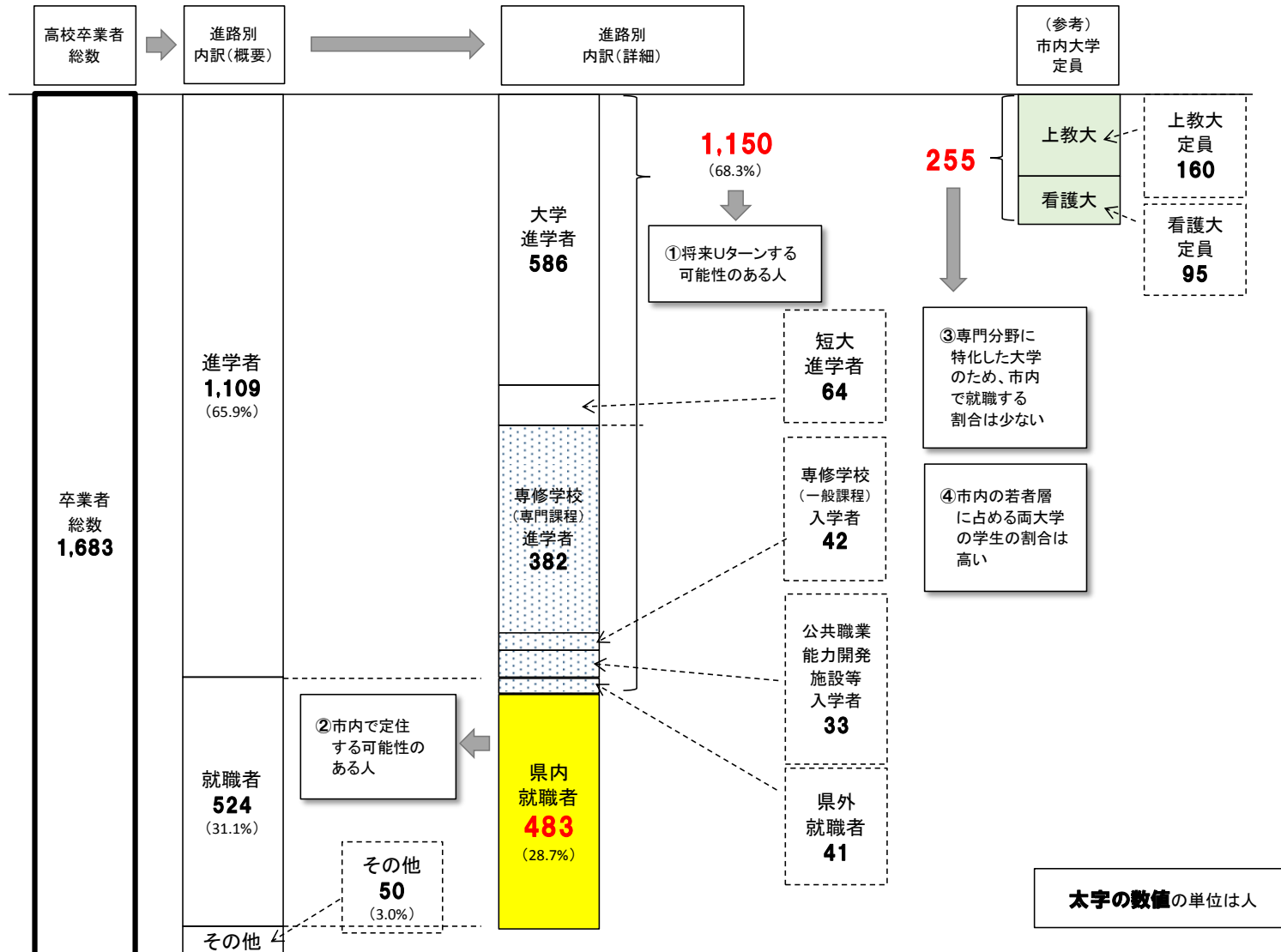


・当市の年代別の純移動数を見ると、10代後半から20代前半にかけての人口流出が著しくなっている。

・20代後半から30代前半にかけては当市へ転入の傾向が見られるが、男性の数と比較して女性の数が少なくなっている。

出典 総務省「国勢調査」

# 【上越市内の高等学校における卒業者の進路の状況】

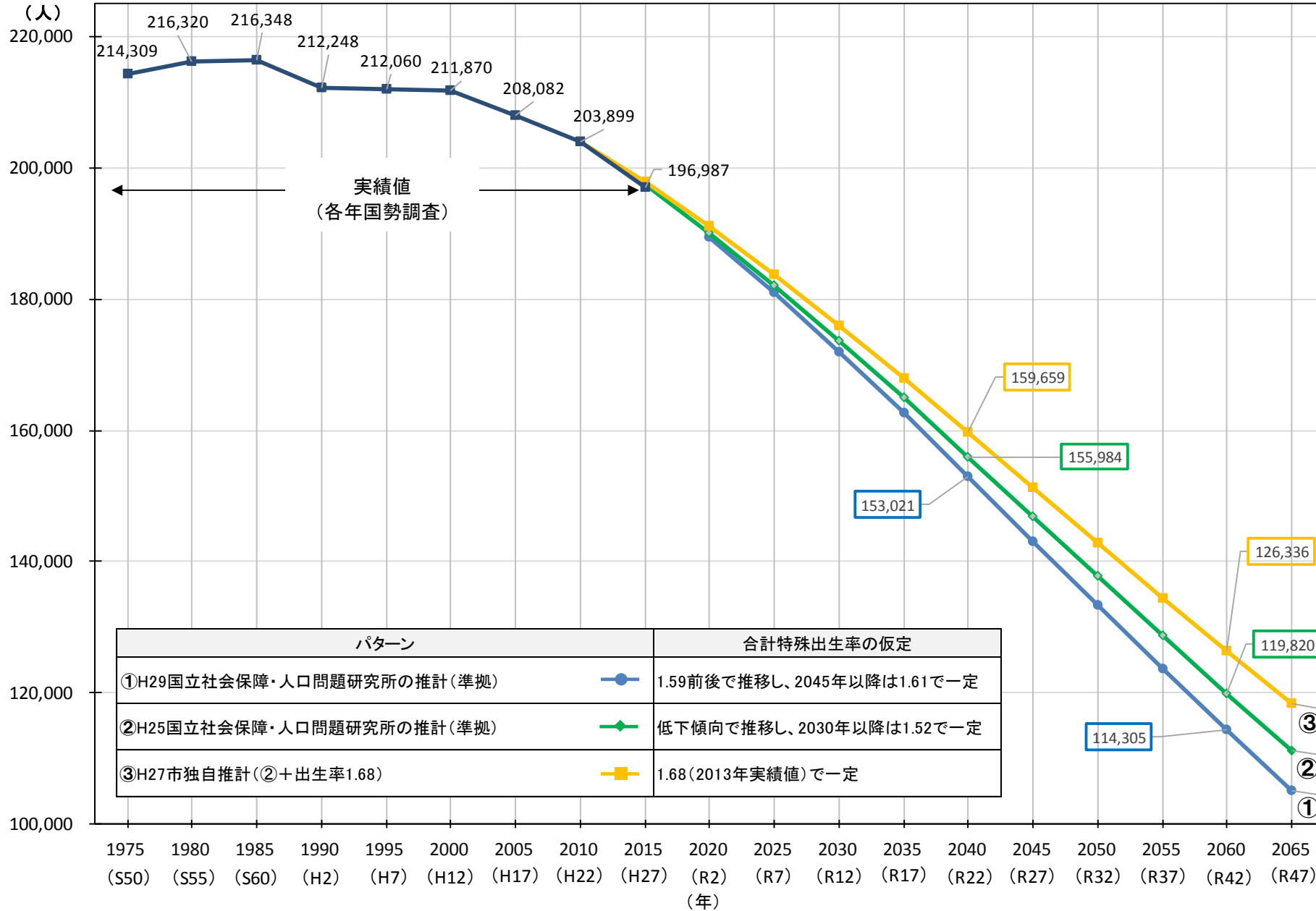


・市内の高校卒業者の進路を見ると、65.9%が進学、31.1%が就職となっている。

・進学者1,109人に県外就職者41人を加えた1,150名が将来Uターンする可能性のある人だと言える。



# 【上越市の将来人口推計シミュレーション】



・令和47年における当市の総人口は、平成25年時点の国立社会保障・人口問題研究所の推計(緑色)と比較して、最新の平成29年の推計(青色)総人口の値は、低くなっている。